◆経済倶楽部講演会第4117回（5月29日）

習近平政権の反腐敗キャンペーンと経済外交

東京大学大学院教授　高原（たかはら）明生（あきお）

＊半年間の北京滞在時の印象
＊恐るべき日本に対する無理解
＊暗殺を恐れる習近平
＊反腐敗キャンペーン推進の背景
＊派閥を厳禁して権力の集中狙う
＊幹部の委縮は経済にも影響
＊「新常態」と称されるものの実状
＊難しい米国との「新型大国関係」
＊AIIBには日本も参加を
＊対日関係改善に動く理由

柴生田　それでは開会いたします。（拍手）

今日は、1年半ぶりになりますが、高原先生に来ていただきました。実は去年の秋もお呼びしようかと思っていたんですけれども、先生は去年の9月から今年3月まで研究休暇で北京にご滞在でして、ちょうど帰られたところでお願いをしたということでございます。

中国は相変わらずいろいろな問題を提供しているというか、かつてとは比べ物にならないほど大きな影響力を持つようになりましたので、中国がどこへ行くのかというのはわれわれにとって大きな問題だと思います。安全保障上の問題も含めて、経済の問題ではさらに大きな影響があるわけで、習近平政権ができてから、こういった中国の新たな問題というものがさらに大きくなっているというふうに思われます。

そういう意味で、さっき北京滞在中、たいへんお忙しくて、休暇も研究もなかったとおっしゃっておられましたが、そういった現地での実情も踏まえて、中国の政権、経済というものをどう見たらいいか、今日はじっくりお話を伺いたいと思います。

では、よろしくお願いいたします。（拍手）

高原　どうもご紹介ありがとうございました。

たしか前回が去年の4月だったと思いますので、1年ちょっとぶりということになります。この1年間でいろいろな事態の展開がありました。中国の国内について言えば、経済の減速傾向がよりはっきりとしてきた。政治のほうでは反腐敗キャンペーンが進んだ。外交では、アメ